

#### 4-7 水生生物のコアゾーンづくり (青木：冬水田、青木城趾)

佐渡トキの田んぼを守る会代表の斎藤真一郎さんをはじめ、会の農家から指導を受けます。ふゆみずたんぼや不耕起栽培、「ただの虫」のお話しなどを聞きます。

##### ■佐渡トキの田んぼを守る会

新穂青木地区の農家・斎藤真一郎さんを代表に、無農薬、無化学肥料や減農薬の米づくりに取り組んでいます。トキの田んぼを守る会では誰もが農業の経営の範囲で無理をすることなく、楽しんで生き物いっぱいのお米栽培に取り組んでいます。

基本的には、肥料は化学肥料を使わず、すべて有機肥料をつかっています。有機肥料の方が、食味も栄養成分もよくなるからです。無農薬の田んぼと、一般よりも5割～9割農薬を減らした減農薬田んぼで米づくりを行っています。不耕起栽培やふゆみずたんぼ(冬季湛水水田)は、生きものの力を利用して無農薬・減農薬栽培を行う農法です。できるだけ農薬を減らす努力をしながらも、まずはおいしい米作りをめざしています。

会では、イトミミズとカエルの生きもの調査を年4回行なっています。普通の田んぼでは、1反(10アール、10m×100mの面積)に約200万匹のイトミミズがいますが、会の田んぼで多いところは3000～5000万匹のイトミミズがいます。これくらいいると、田んぼで草が生えるのを抑えてくれます。

カエルがたくさん田んぼにいればイネの実を吸って黒い斑点をつけるカメムシを食べてくれます。また、クモがたくさんいれば、イネの害虫を食べてくれます。生きもの調査は大変ですが、農薬を使わない農法がうまくいっているかどうかを知ることができます。

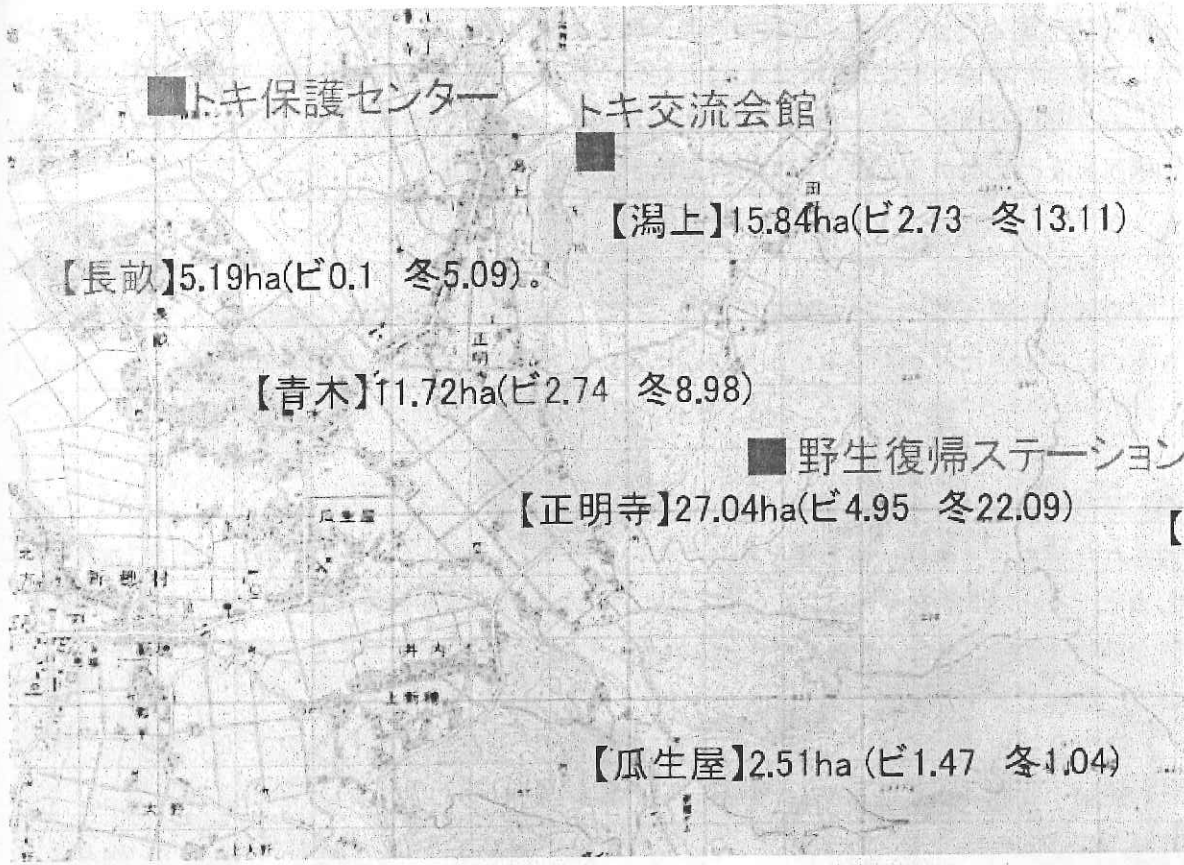
イネは田んぼの食物連鎖の中で育ちます。まったく虫がいない田んぼは、逆に言えば害虫が一気に増えやすい環境です。田んぼで生まれる生きものはたくさんあり、たくさんの命が死に、それがみんな循環しています。田んぼは命を支え、田んぼの中に命の循環ができています。田んぼでも畑でも、天敵となる生きものがいればバランスよく害虫も排除され、農薬を減らすことができます。

「この米の田んぼにはこういう生きものがいますよ」というのが食べものの安心安全の指標になります。エサとなる生きものがいないとトキも来ませんから、トキが舞い降りて来たということは、佐渡は生物多様性が豊かで、人も生き物も住めるすばらしい環境と言えます。

##### ■コアゾーンづくりの内容

青木地区をはじめ、周辺の地区の田んぼと水路で農家と一緒に草取り、生きもの調査の手伝いなどをします。着替え、休憩等は、トキ交流会館などを使用します。

所要時間：3～4時間(トキ交流会館までの往復、着替え等を含む)



■ トキ保護センター

トキ交流会館

【湯上】15.84ha(ビ2.73 冬13.11)

【長畝】5.19ha(ビ0.1 冬5.09)

【青木】11.72ha(ビ2.74 冬8.98)

■ 野生復帰ステーション

【正明寺】27.04ha(ビ4.95 冬22.09)

【瓜生屋】2.51ha(ビ1.47 冬1.04)

